

外国人労働者との共生

(1) 来日している外国人労働者の現状はどうでしょうか。

この10年間で3倍に増えている外国人労働者。
日本は、少子高齢化からの労働人口の減少に直面して、益々、外国人の労働力に頼らざるを得ない現状があります。

(2) 外国人労働者と受け入れ企業間で表面化している課題は何でしょうか。

上記状況下では、日本企業に働く外国人労働者と、職場の日本人労働者、経営者との間には、解決していかなければならない課題が多くあることも認識されています。

一つは、言葉の問題です。

日本の企業に勤めるためには、言葉の問題が先ず、解決しなければならないものであり、この為には、語学講座、語学研修などの習得によって、教育環境を整えてお互いのコミュニケーションが図れるようにすることが大事です。
しかし、これは一企業だけで負担することが難しい場合も多く、地域の公共団体の協力も仰いで、ネットワークを整えることも必要です。また、資金的な援助も求められます。

二つ目は、いわゆる異文化コミュニケーションのトラブルです。

海外から来る外国人労働者とそれを受け入れる日本の企業との間の人との共生には、お互いの習慣、文化などへの理解も必ず必要です。
この問題については、来る方に問題があるのか、受ける方に問題があるのかを良く見極めなければならないということが様々な状況分析から分かってきています。
最近の例では、受入れ側の方に寧ろ大きな課題が存在しているという報告があります。

(3) これらの課題をどのように解決していけば良いのでしょうか。

一企業が抱える外国人労働者を雇用している中で生じた課題、問題点については、専門的、かつ経験に裏付けされたアドバイスに基づく解決が求められます。皆様の近くには、その様なアドバイザーは存在されますでしょうか？

(4) G-JICの強みと提言

G-JICには、上述した課題に実際に取り組んできた国際ビジネスアドバイザーが皆様のビジネスコンシェルジュとして控えています。

したがって、これまでの経験を生かしたより実践的なアドバイスやマニュアル作成等の適切なビジネスコンシェルジュサービスの提供が可能となっています。

G-JICとして何ができるのか？

G-JICは、中小企業を応援するサポーターとして常に一緒に考えていきます。